

めざす児童生徒像

学校教育目標：**学び続けて 未来を拓く 矢田野っ子の育成**
・自己判断・自己決定…場面や状況に応じて行動する子
・問う力…問いをもって主体的に学ぶ子
・コミュニケーション能力…他者と連携・分担・協力する子

めざす児童像：『問いをもつ 考える 学び合う』つながる矢田野っ子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定） 学校重点項目	自己肯定感の向上	全ての項目において児童の肯定的な回答の割合が90％以上	① 学校が楽しいと思う。						
			② 自分にはよいところがあると思う。						
			③ 友だちのよさを認め、なかよくしている。						
			④ クラスや学校をよくするために考えて行動している。						
			集計						
	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目				達成状況の分析	改善策
重点項目 石川県共通 業務の改善 働き方や 業務の改善			全ての項目において、肯定的に答えた教員の割合が中間は85％以上 年度末は90％以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。					
				② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。					
				③ 自分に仕事を任せられ、達成感をえられている。					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	①と②の平均が 中間…85％以上 年度末…90％以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。						
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。						
			集計						
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①と⑤の児童の割合が 中間…80％以上 年度末…85％以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。						
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。						
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。						
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。						
			集計						
	学力の向上	①②③の平均が 中間…85％以上 年度末…90％以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。						
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。						
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。						
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)						
			集計						
	学習方法	①「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。」 ②「自分のペースで理解しながら学習を進めるときに、学習用端末を使っている。」 ①②の児童、教員の平均が80％以上	① 児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。						
			② 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。						
			集計						

令和 7 年度小松市立矢田野小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・ 8 月提出）	取組の成果と課題（年度末・ 3 月提出）
生徒指導	自己実現を支える生徒指導と特別支援教育の推進		
	＜生徒指導＞ ・自ら育つ姿勢を支える日常的な発達支持的生徒指導の推進に取り組む。 ・学校研究と連携した生徒指導 4 つの視点を生かした授業づくりや学級づくりの推進に取り組む。（今年度の重点は、「自己決定」と「共感的な人間関係の育成」 →上記 2 つは、教職員が意識して取り組みを進めることができるように、自己評価シートを月 1 回実施する。それを生徒指導主事が集計し、職員終礼等で周知を図る。 ＜集団づくり＞ ・共感的な人間関係育成のためにクラス会議を月 1 回実施する。 ＜特別支援教育＞ ・児童理解の会や校内委員会の場を活用し、児童の特性を共通理解し、ケース会議等を開き、職員相互で協議して、個に応じた支援策を考え、共通実践する。		
保健	衛生習慣を整え、規則正しい生活を啓発する		
	・ 4 ・ 9 ・ 1 月にハンカチの所持率、使用率を高めるための指導を実施する。 ・ 11 月に学校保健委員会を開催し、ハンカチを使用した手洗いの実態と専門知識を学び、衛生習慣について協議する。 ・ 手洗いの重要性について考える機会を作る。		
体育	体育が好きな児童を増やし、体力向上の意識を高める		
	・学期末に、体育が苦手だと感じている児童が自信をもって取り組むことができた方法を、学期末に教員間で共有し、指導に生かす。 ・個々の児童が技能を向上させ、達成感が得られるように、場や環境を工夫する。 ・「体育が好き」と答える児童が 8 割を超え、体育が苦手な児童の意識が向上するようにする。		

学校関係者評価	
---------	--